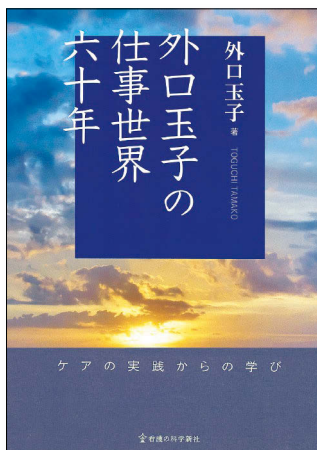




外口玉子の仕事世界 六十年

外口玉子＝著

定価3,850円（本体3,500円＋税10%）

看護の科学新社

戦後日本に精神看護を切り拓いた先駆者である外口氏。50年近く前に、30代半ばで“精神障害者を暮らしの場で支える地域ケア”を提唱した著者が、2022年3月に亡くなられる直前である2月に、ご自身の一生を振り返る形で本書を発行された。時代の要請に応え、その時々で何を感じ、どう行動してきたか。根本には常に「病む人をケアの場を成り立たせている主体と受け止め、認め合う」という考えがあった。日本の精神科看護の“生き字引”とも言える著者の思いと実践、そしてその言葉をしかと受け取りたい。

外国人看護助手テキストブック

中友美＝著

定価1,430円（本体1,300円＋税10%）

幻冬舎メディアコンサルティング



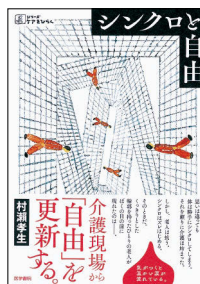
看護助手の資格取得には、出身国も性別も不問である。本書は、看護助手を目指す外国人向けに、日本の病院、施設で働くにあたっての挨拶、マナー、日本の文化的なことから、感染対策、医療安全など命にかかわる基礎知識、運搬、物品の整備、体位交換、移送、食事、入浴といった療養生活上の世話についてまでを解説。大きめの文字で全漢字にルビ・イラスト付き。雇用する側の人にも薦めだ。

シンクロと自由

村瀬孝生＝著

定価2,200円（本体2,000円＋税10%）

医学書院



テレビで放映されるや、「こんな老人ホームなら入りたい！」と反響を呼んだ特別養護老人ホーム「よりあいの森」「宅老所よりあいの森」第2宅老所よりあいの森。その統括所長である村瀬氏が綴る、お年寄りとの自由と不自由がからみ合った不思議な話たち。老いるということ、ボケるということをこのように受け止めてくれる場、人が居たならば、私たちはもっと気楽に生きることができると思えるだろう。

学校では教えてくれない 自分を休ませる方法

井上祐紀＝著

定価1,430円（本体1,300円＋税10%）

KADOKAWA



眠れない、食欲がない、食べるのがやめられない、ゲームがやめられない、自分を痛めつけたくなる、友だちに嫌われている気がする、話したい友だちが学校にいない、親と一緒にいるとイライラする……そんな状態にいる子どものために、ストレス原因を見つける手伝いをしてくれる本。照準は子どもだが、大人も読める。学校を休んでいる間の日常の過ごし方・親の接し方へのアドバイスも。

ミシンと金魚

永井みみ＝著

定価1,540円（本体1,400円＋税10%）

集英社



ケアマネジャーとして働く著者のデビュー作で、第45回すばる文学賞受賞。名だたる作家が絶賛し、新聞や雑誌など各メディアが取り上げる理由もうなずける。リズムよい口語体で、認知症を患う“あたし”の語りを波紋のように読みつなぐうちに、読者は“あたし”の凄絶な「女の一生」を知り、同時にこの波紋から逃れられなくなる。生まれて老いてやがて死ぬ、誰もがたどるその道を、介護現場を知る著者だからこそそのリアリティで描き切る。